

金剛寶戒寺便

<https://www.honkaiji.jp>

令和六年五月一日発行 第二二二号

檀信徒の皆様、こんにちは。春はあけぼの、夜の闇が溶け出す頃、ウグイスが心地よい歌声で一日の始まりを教えてくれています。

四月五日、六日、七日と法要会館並びに庫裡のお披露目会がありました。連日八十名前後の方々に参加して下さいました。ご家族やお友達を誘って参列くださった方もいましたので。とても賑やかな会となりました。今号では参加されなかった方々にも法要会館の考え方などを共有して頂くために、説明会でのお話を記載させて頂きます。

まず、この度の事業には本当に多くの方々のご協力とご理解を頂きました事を改めてお礼申し上げます。お檀家様だけでなく、地域の方々にも建設音や工事車両などでご迷惑をお掛けしたと思うのですが、トラブルなど無く完成することが出来ました。本当にありがとうございます。その様なことも踏まえ、これまではお話の中で「法要会館」と呼んできましたが、今後は「檀信徒会館」と改名させて頂きたく思います。したがって記念に建立する石柱にも皆様のお名前と共に、そのように彫りこみを致しますのでご了承下さい。

「檀信徒会館」とすることで「法要」だけに縛られず、もう少し広い範囲での利用もしや

すくなると思います。皆様からもアイデアもお聞かせ下さい。

会館の大広間は四十五畳あります。また宿泊や待合室として使える客間が二つと、軽食などを取ったり、お斎の調理や配膳が出来るダイニングキッチンに、多目的トイレと男女合わせてトイレが六つ、簡易なお風呂があり、本堂へ上がる階段には昇降機を設置いたしました。また、玄関横には土間の来客室を作っています。これが主な間取り等になります。四月末日までに法事や葬儀などで利用をすることはありませんでしたが、今までも利便性は高まっていると思います。

私はこれまでの三十年間で様々な葬儀をさせて頂きました。時には私の控室よりもお葬儀の部屋が狭く、大げさな話、喪主様の膝が私の椅子に触るのではないかと思うような部屋もありました。様々な理由は見受けられましたが、大切なお檀家様の最期を送り出すには忍びない気持ちになり、葬儀社の方に「私の控室と葬儀部屋を取り換えることは出来ませんか？」と聞いたこともあったほどです。

そんな時に頭に浮かんだのは、広く立派な本堂を使って葬儀が出来たらどんなに良いだろうかと言う事でした。その様な長年の思いもあり完成をしますので多くの方にご利用を頂きたいのですが、法事や葬儀での利用は主に「檀家様」に限らせて頂きたく思っています。他のお寺から住職様などが来られて法

事や葬儀をすることはお断りをしたいと考えています。基本的には金剛宝戒寺の住職が導師を勤めさせて頂く場として、ご理解いただきたく思っています。(皆様のお考えもお聞かせください。)

また、既に葬儀社で互助会に入っている方は解約をしないでください。出来たらその葬儀社に依頼をして、お寺で葬儀を執り行いたく思っています。

最後にお願ひとなりますが、ご存じの様に、お葬式は急に入ります。葬儀を希望した時に、お寺で法事や葬儀、その他の行事が入っており、重なることも今後は考えられます。場合によっては日時の調整をお願いすることもあるかもしれません。特に大切なご家族様がお亡くなりになった時は気が動転してしまう事もあるとは思いますが、ご縁が深いからこそ重なり合つたとご理解いただき、ゆずり合いの精神を大切にして頂きたく思っています。寺族も力を合わせて皆さま方をお迎えいたしますので、どうぞ宜しくお願い致します。

六月八日(土曜日)十四時より

檀信徒会館において 「法話の会」

ほんの半世紀前まで、お葬式はご自宅でさせて頂きました。その自宅葬をお寺で行うと考へて頂いたら良いかと存じます。時には会場作りのお手伝いをお願いするかもしれません。それがご供養とお考え下さい。

合掌